

論文題目：失語症者の適応に関わる諸要因の経過的变化に関する研究

氏名：守屋 咲希

要約：

本論文では、生活期失語症者の個人ごとの要因に注目し、障害の対処の観点から評価される適応(立石, 1990)の経過的变化について分析した。脳損傷の結果の生物・心理社会的モデル(Evans, 2006)を使用した半構造化面接による長期間についてのケースフォーミュレーションを実施して、生活期失語症者の生活に関わる個人要因、環境、参加などのあらゆる認識を明らかにし、不適応および適応の要因を明らかにした。また、経過の中で適応と不適応を繰り返すことや、不適応から適応へ変化するプロセスに関連する要因も明らかになった。さらに、QOL評価の結果、および計量テキスト分析の結果からも、フォーミュレーションの結果と同様、時間の経過、環境、具体的な障害の認識が適応に関わることが明らかになった。そして、脳損傷の結果の生物、心理社会的モデルを使用したケースフォーミュレーションは、生活期失語症者の包括的リハビリテーション、長期的、多面的支援に役立つことが示された。